



しじゅうから

福島市小鳥の森通信2017年12月号 No.384

小鳥の森で観察してみよう 73

ミヤマホオジロ

ホオジロ科

体の大きさ：16cm

生態：

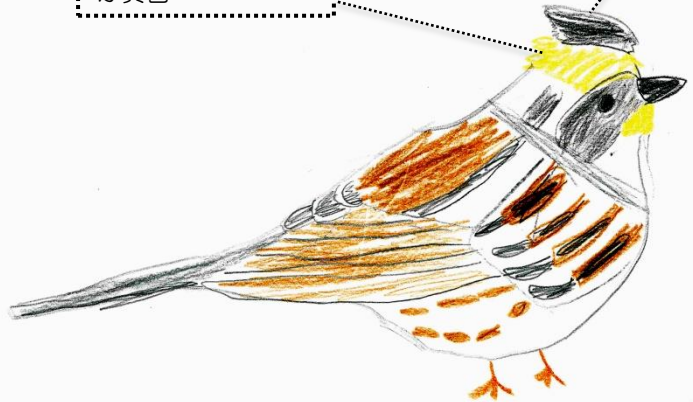
- ◎平地から山地の開けた森林に棲む
- ◎冬にカシラダカやホオジロと一緒に群れを作る
- ◎種子・昆虫・クモ類を食べる

小鳥の森での観察：

ネイチャーセンター周辺や旧棚田などでカシラダカの群れに混じっていることがある。

頭に冠羽（かんう）と呼ばれる長く伸びた羽毛があり、興奮すると三角形に立ち上がる

目の上や喉（のど）が黄色



菅野詩月

今回の絵は、菅野 詩月（しずく）さんが描いてくれました。

12月の自然予報

12月になると、気温も下がり、雪がちらつく日も出てきます。

森の中では、エサとなる木の実や草の種が減ってきて、給餌台に集まってくる野鳥の種類も増えてくるでしょう。

給餌台には、11月はヤマガラやシジュウカラがよく訪れていましたが、12月になると、シメやカワラヒワなども頻繁にやって来るようになります。また、去年はアトリもよくやって来ていました。

今年の冬は、アトリの他にも、数年ぶりにゴジュウカラも確認されているので、ひょっとしたら給餌台に訪れるかもしれません。

ちょっと寒くはなりますが、小鳥の森でバードウォッチングはいかがでしょうか。



シメ



カワラヒワ



アトリ

11月の自然

11月に入ると、ジョウビタキを見かける日がふえました。ネイチャーセンターの窓からも「カッカッヒッヒッ」と鳴いて縄張り宣言をする姿を見ることができました。

ジョウビタキは、冬に小鳥の森にも渡ってくる野鳥で、スズメより少し小さい体長15cmほどの大きさです。

ジョウビタキのジョウは「尉」と書き、「白髪のおじいさん」という意味を持ちます。くっきりとした黒いお面に白い頭が目立つオスの顔から名付けられました。胸から尾にかけては明るいオレンジ色をしており、鮮やかなコントラストも人気のひとつです。黒い翼に白い斑が着物の紋に見えることから「紋付鳥（もんつきどり）」とも呼ばれます。

葉が落ち、見通しの良くなった冬の森で、私たちの目を楽しませてくれました。



ネイチャーセンターから撮った
ジョウビタキ（オス）

小鳥の森スタッフだより

ウスタビガの繭（まゆ）

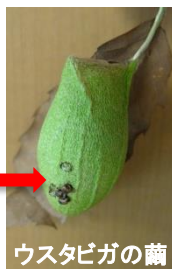
寒さとともに森の落葉が進み、木々の枝が目立つようになってきました。葉っぱが落ちた枝先に鮮やかな緑色の物がぶら下がっていることがあります。これはウスタビガの繭。

葉っぱがあるときは上手にかくれています。落葉した森では目立つようになります。ウスタビガは10月頃に成虫になるため、これから見つかるほとんどの繭は空っぽです。成虫は食事をしないとされており、交尾、産卵が終わると一生を終えます。また、メスは抜け出た繭に卵を産むことがあるため、卵も見つかるかもしれません。

この他にもウスタビガのように目立ちませんが、ヤママユガやクスサンの繭も見つけることができます。

さびしく感じる森でもいろいろな発見があります。冬の森に出かけてみませんか。

（チーフレンジャー 長渡真弓）



ウスタビガの繭

「秋のバードウォッチング」を開催しました

11月12日に「秋のバードウォッチング」を開催しました。

はじめは、室内から給餌台に集まるヤマガラやシジュウカラを観察しながら双眼鏡の使い方を練習しました。

その後、野外で野鳥を探しながら散策しました。棚田周辺では冬鳥のカシラダカを、終点の五本松沼では、マガモやカルガモ、カイツブリなどをみんなで観察することができました。

当日はすこし肌寒い気温でしたが、雨も降らずゆっくりと観察することができました。



カイツブリ

※福島市小鳥の森では色々なイベントを開催しています。
詳しくはネイチャーセンターまでお気軽にお問い合わせ下さい。

*小鳥の森ホームページで小鳥の森スタッフが独自に測定した環境放射線量を公開しています。

福島市小鳥の森（ネイチャーセンター） 開館時間：午前8時30分～午後5時

《入場無料》休館日：毎週月曜日（祝祭日の時はその翌日）

〒960-8202 福島市山口字宮脇98 Tel: 024-531-8411 fax: 024-534-8800

小鳥の森のホームページ・・・<http://www.f-kotorinomori.org/>

小鳥の森通信「しじゅうから」2017年12月号No.384／企画・発行：福島市小鳥の森／日本野鳥の会ふくしま